

# 患者さんに寄り添い 看護の理想を実現したい

大阪医科大学附属病院  
看護師長

添田百合子さん

創価大学教育学部  
通信教育課程卒業

「看護の本質はヒューマンケアです。患者さんの痛み、苦しみを、心底感じとり、全身で受け止めることだと思っています」

糖尿病ケアの専門看護師  
(慢性疾患看護専門看護師)  
として、大阪医科大学附属病院に勤務する添田百合子さん  
はこう話す。

専門看護師とは、特定の専門看護分野において高度な知識と技術をもつと日本看護協会が認めた看護師に与えられる資格で、慢性疾患看護分野では、二〇一二年四月現在、全国に六十三人いる。添田さんは、その第一号となった四人のうちの一人である。

添田さんは、一九六六年、広島市に生まれ、普通科高校を卒業後、看護学校を経て看護師になった。糖尿病に関わるようになったのは、看護師になって四年目。糖尿病の治療には、日常的な食事療法や



運動療法が欠かせない。そうした指導を行うのも看護師の重要な仕事だ。

「でも、なかには、いくら言っても、食べ過ぎが治らなったり、運動なんてできないという患者さんがいて、私の言い方が悪いのかと、ずいぶん悩みました」

添田さんは、患者さんに納得してもらえない指導の仕方を知りたいと、九五年、創価大学教育学部通信課程に入学。

大阪医科大学附属病院の正面玄関付近で

「夜勤明けに大阪から八王子まで高速バスでスクーリングに通ったり、レポートの山に押しつぶされそうになったりした四年間でしたが、目から鱗が落ちるような経験が何度もあって、学ぶことの面白さを初めて知りました。創立者の『労苦と使命の中にのみ人生の価値は生まれる』という言葉が支えてました。ここから、看護師としての自分の使命が開かれたのだと思いま

「人間教育の最高学府たれ」「新しき大文化建設の揺籃たれ」「人類の平和を守るフォーカス(要塞)たれ」を建学の精神とし、生命の尊厳を守る人間教育に力を入れてきた創価大学は、二〇一三年、グローバルマインドをもったヒューマンケアのプロを育てる「看護学部」(設置申請予定・指定学校申請予定)を開設します。

創価大学を卒業した添田さんは、看護のスペシャリストとしての道を切り拓くために、兵庫県立看護大学大学院へ。「新たな一歩を踏み出した私に、当時、勤めていた病院の看護部長が、『必ず専門看護師が必要とされる時代が来る。あなただったらできる、がんばれ』と励ましてくれました。多くの方々に支えられ、成長できたのだと思っています」

添田さんは、今、大阪医科大学だけでなく、新潟大学や広島大学、福岡県立大学などで後進の育成にも力を注いでいる。看護師はあくまで患者さんの意思を尊重し、患者さんに寄り添う在り方が大切だという添田さん。

教育理念の中心に「生命の尊厳」「人間教育の最高学府」を据えてきた創価大学の看護学部開設に、大きな期待を寄せている。

Soka Report | 創立者の軌跡 | 平和・文化・教育の世紀へ 30

創価大学の創立者である池田大作先生は、1996年、モントリオール大学長で医学博士のルネ・シマー氏と対談(写真)。「患者に希望を持たせるように心がけるべきです。患者と医師と治療の結果を信じ、苦しみを克服し、不安や苦痛に耐えていけるの

は、ひとえに、この希望があるからです」とするシマー博士に、創立者は「希望こそ、『病苦』をはじめとする人生のさまざまな苦難に挑戦する原動力です」と応じ、互いの考えを深めあった。対談は『健康と人生—生老病死を語る』として刊行されている。



Yuriko Soeda

そえだ・ゆりこ(一九六六年、広島市生まれ。八九年、大阪警察病院附属看護学校卒業。同年、同病院勤務。その傍ら、九五年に創価大学教育学部通信教育課程に入学し、九九年卒業。二〇〇〇年、休職し兵庫県立看護大学大学院看護学研究科で学び、修士(看護学)取得。〇四年、日本看護協会より慢性疾患看護専門看護師として第一号の認定を受ける。福岡県立大学看護学部講師を経て、一〇年、大阪医科大学附属病院に看護部長として勤務。新潟大学大学院保健学研究科臨床准教授のほか、福岡県立大学や広島大学などの非常勤講師を兼務。